

1 自分を見つめ伸ばして
(4) 真理・真実・理想を求め人生を切り拓く

P.32~37

1-(4)

真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。

1-1の内容項目のページの特徴

本内容項目では、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく力強い生き方について考えることができる。理想を追い求めることは、ともすれば宙に浮いた空想的な態度に陥る場合もある。それゆえ、理想を求めて生きていく原動力となる真理を愛し、真実を求める態度が要求される。本項目のページを活用して、理想をもつて生き、夢や理想を実現するためにはどうすればよいかを友達や人生の先輩の意見を参考にしながら考えることができる。また、湯川秀樹の「人物探訪」から、真理や真実を探求し、実現すべき理想に向けて生きることの大切さを自覚することができる構成となっている。

2 活用のポイント

中学生の時期には、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなってくる。一方で、現実と遊離した理想を性急に求めるあまり、その夢が破れたときは人生の虚しさを感じてしまうことも多い。そこで、理想や夢について漠然と思いを巡らせるだけでなく、真理や真実を探求することで目標をもった生き方ができることに気付かせたい。内容項目1-1(2)「目標を目指しやり抜く強い意志を」との違いと相互の関連を意識した指導が求められる。

3 活用場面例
道徳の時間

三十四ページの書き込み欄を活用して、友達や家族、地域の人に取材をし、家庭や地域と連携を図ることができる。また、導入や終末で自己の生き方と関わらせて考えを深める際にも活用することができる。

事例

- ① 事前学習で三十四ページを読んで、夢や理想の実現について、友達や人生の先輩の考えを取材する。
- ② 取材してきたことをグループで紹介し合う。
- ③ 三十六ページの「人物探訪」を読み、湯川秀樹の生き方について考え、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく生き方について話し合う。
- ④ 三十七ページの「この人のひと言」を読み、自分が関心をもった言葉を選び、理由を添えて発表する。



P.34

理科(第一分野)

第一学年の始めの時期に、理科の学習への意識付けを図る段階において、三十六ページの「人物探訪」を読んでも、「未知の世界を探究する人々は地図を持たない旅人である。」の言葉の意味を考えさせ、科学的に探究する学習への意欲を高めさせるようにしたい。

◆人物探訪へ湯川秀樹へ

「未知の世界を探究する人々は

地図を持たない旅人である。」

湯川秀樹が人々の尊敬を集めるのは、日本人初のノーベル賞受賞者ということだけではない。科学者の執念で真理・真実を追い求め続ける真摯な生き方が、時代を超えて人々に多くのことを語り掛けているのである。また、湯川は研究を世界最高峰への登頂に例えて、「科学の探究者にはどこに最高峰があるかは、あらかじめ知らされてはいない。行けども行けどもはてしない山脈が、どこかで終つて坦々たる平野に続くのか、それとも人智の力では超えることのできない絶壁にぶつかるとか、われわれはそれを知らずに進んでゆくだけである。」と述べ、真理や真実の探求はゴールが分からない冒険であることを伝えている。

このようなエピソードを伝えて、「未知の世界を探究する人々は地図を持たない旅人である。」という言葉の意味を考えさせたい。

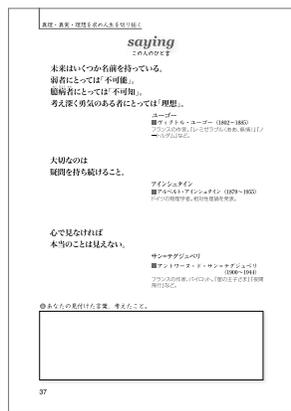
◆この人のひと言

「大切なのは 疑問を持ち続けること。」

アルベルト・アインシュタインの科学者としての思いがこの言葉に凝縮されている。

アインシュタインは、十六歳のときに「もし自分が光の速さで飛んだら、顔は鏡に映るのだろうか。」という疑問をもち、悩んでいたという逸話が知られている。

この逸話を紹介し、「今、もち続けている疑問はあるか。」「その疑問とこれから先どのように向き合っていくか。」などの問いによって、真理・真実と正対することが理想の実現を目指して人生を切り拓くことにつながることに気付かせたい。



P.37

1 自分を見つめ伸ばす
 (5) 自分を見つめ個性を伸ばす

P.38~43

1-(5)

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、生徒一人一人の自己肯定感を高め、個性を伸ばしていくようにすることに関わるものである。また、将来こう在りたいという自分像を描くことは、自己の向上を願って生きていく上で大切なことである。そのため、三十八から四十一ページで、自分の「良い所」も「改めたい所」も含めてそれが自分の個性だということに気付くことができるようにし、四十二・四十三ページでは、自分の個性を伸ばして充実した生き方を追求することのすばらしさについて考えることができるような構成になっている。

2 活用のポイント

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分の在り方や生き方についての関心が高まる一方で、自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較において捉えたりするため、その至らなさに悩むことも少なくない。自己の欠点や短所にこだわらなく、自己をまずは肯定的に捉えようとするとともに、自己の優れている面などの発見に努め、自己との対話を深めつつ、よりよく個性を伸ばしていくことができるようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

三十九ページや、四十二ページの山中伸弥氏の「メッセージ」、四十三ページの「この人のひと言」などを読んで、自分の個性とその伸長について考え、自己を見つめ自己の向上を願って生きていこうとする態度を養う。

事例

- ① 三十八・三十九ページを読んで、「私のカラー」を考え、三十九ページの書き込み欄に記入する。
- ② 「私のカラー」についてグループで紹介し合い、友達から意見をもらう。
- ③ 「メッセージ」を読み、その生き方から自己を見つめ、個性を伸ばすことのすばらしさについて話し合う。
- ④ 四十三ページの「この人のひと言」を読んで、感じたことや考えたことを記入し、発表する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 適応と成長及び健康安全」の「イ 自己及び他者の個性の理解と尊重」の指導に当たって、かけがえない自己を肯定的に捉え、自己の優れている面などの発見に努め、自己との対話を深めつつ、さらに個性を伸ばしていこうとする意欲を高める学習で活

用することができる。

事例

- ① 三十八・三十九ページを読んで、自分の「良い所」「改めたい所」を見つめ、四十一ページの書き込み欄の「自分のこんな所を…」に記入する。
- ② 四十一ページに書き込んだことについて友達と意見交流し、「良い所」に磨きをかけたり、「改めたい所」を改善したりするためのアドバイスをもらう。
- ③ 友達からのアドバイスを基に、自分の「良い所」に磨きをかけたり、「改めたい所」を改善したりすることについて再度考えたことを四十一ページに書き加える。
- ④ 自分の個性を伸ばしていくために取り組んでみたいことを決めて発表し、実践していくようにする。

◆メッセージへ山中伸弥

「医師になつたからには

最期は人の役に立って死にたいと思っています。」

ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏は、最初から順調に研究者としての道を歩んできたわけではない。研修医時代のあだ名は「ジャマナカ」。何度も壁にぶつかりくじけそうになった。順調なくとも困難なときも一喜一憂せず、自己を見つめ「こう在りたい」という思いを常にもち、努力を続けてきた。その生き方から、自分の長所も短所も含めてそれが自分の個性だということや、将来こう在りたいという願いをもって生きることのすばらしさについて考えさせたい。

◆この人のひと言

「初心忘るべからず」

世阿弥が「花鏡」で芸に精進する際の心得として記した言葉である。

「初心不可忘。此句、三ヶ条口伝在。是非初心不可忘。時々初心不可忘。老後初心不可忘。此三、能々口伝可為。」

◎本来は、「若い頃の未熟な芸を忘れるな」という意味であった。世阿弥の言う「初心」とは、未熟だった自分のことである。それは思い出すと恥ずかしくなることもあるだろう。それでも目をそらさずに自分を振り返り見つめることで、これからなすべき道が見え、いつまでも上達し続けることができる。いくつになっても、その時に経験する芸の未熟さが「初心」であり、それを忘れず努力することで自分の能力を伸ばし続けることができるということである。

◎世阿弥は、室町時代に猿楽や田楽などの芸能を、総合舞台芸術の能楽として大成させた能役者である。六〇〇年経った今でも演じられる作品や読まれる秘伝書からは、日本人が大切にしてきた心や文化を感じることができる。

◎社会科学の歴史的分野の学習だけでなく、音楽科、総合的な学習の時間等での学習と関連させて活用することもできる。

2 人と支え合って

(1) 礼儀の意義を理解し適切な言動を

P.48~53

2-(1)

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

1 この内容項目のページの特徴

日本の礼儀は、伝統として受け継がれているという一面もある。また、礼儀には相手を尊重する心が込められており、コミュニケーションをとる上でも重要なものである。本内容項目のページでは、こうした礼儀の意義について考えを深めていくことができる構成になっている。

四十八から五十一ページで、心と形が一体となった礼儀とはどのようなことを具体的に考えるときにも、五十二ページの松下幸之助の「メッセージ」や五十三ページの「この人のひと言」を活用して、自分の礼儀や作法を振り返りながら、内面に基づいて時と場に応じた適切な言動をとっていくことの大切さについて考える内容になっている。

2 活用のポイント

中学生の段階では、礼儀の意義についての理解が十分ではなく、適切な言葉遣い、行動の仕方が十分に習慣化しているとは言えない面もある。また、照れる気持ちやその場の状況に左右されたりして、望ましい行動ができなくなることもある。

日常生活における時と場に応じた適切な言動を体験的に学習する機会を工夫するなどして、形の根底にあるその意義を考えさせ、時と場に応じた適切な言動をとることができるよう態度を養いたい。

3 活用場面例

道徳の時間

時と場に応じた適切な言葉遣いや行動がとれるようにするために礼儀の意義を考える。礼儀は、相手を人間として尊重する気持ちの表れであることを理解し、日本の伝統的な礼儀作法だけでなく、国際化・国際理解という視点から外国の礼儀についても理解を深める。

また、五十二ページの「メッセージ」や五十三ページの「この人のひと言」の意味を考えて、書き込み欄に記入して、自分自身の礼儀を見つめ直す機会とする。

事例

- ① 四十八・四十九ページを読んで、礼儀や作法に込められた思いを知るとともに、礼儀の大切さが分かっても実際に振る舞えなかったことを話し合う。
- ② 五十二ページを読んで、松下幸之助の「メッセージ」に込められた思いについて話し合う。
- ③ 外国の礼儀・マナーについて外国の文化に詳しいゲストティーチャーから話を聞く。
- ④ 五十三ページの「この人のひと言」を読み、考えを深める。

総合的な学習の時間

国際理解などの横断的・総合的な課題についての学習活動において、外国の礼儀・マナーを例として取り上げ、国や民族の独自の伝統や習慣について探究的な学習を行う際に、五十ページを活用することができる。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(3) 学業と進路」の「エ 望ましい勤労観・職業観の形成」の指導に当たって、職場体験活動・社会奉仕活動の事前及び事後指導で活用することができる。

事前指導で四十八ページの文章や四十九ページの「礼儀に込められた思い」「礼儀へのためらい」を活用して、他者の言動から自分自身を振り返って考えたり、よりよい言動を心掛けたりする態度を養うようにしたい。

事後指導では五十一ページを活用して、「時と場に応じたふさわしい言動」について、体験を踏まえて話し合い、心と形が一体となった礼儀の在り方について考えるようにしたい。

家庭との連携

五十一ページの書き込み欄に記入した考えを基に、家の人と話し合い、どのような言葉や態度で接すると、毎日互いに気持ちよく過ごせるかについて考えを深める。

◆メッセージ（松下幸之助）

「礼儀作法は堅苦しいものではなく、単なる形式でもない、社会生活の潤滑油です。」

心と形の一体化という視点から、礼儀作法は社会の潤滑油であるというメッセージの意味を具体的に考えさせる。また、メッセージにある「社会生活における『潤滑油』とはどういうことなのか、さらに松下が「心と形の両面があいまった適切な礼儀、作法」を大事にするのはどうしてなのかを考えさせるようにしたい。

◆この人のひと言

「信実と誠実なくしては、礼儀は茶番であり芝居である。」

新渡戸稲造は、幕末に武士の子として現在の岩手県盛岡市に生まれ、札幌農学校で学んだ後、アメリカ合衆国・ドイツに留学して農業経済学や統計学を修めた。帰国後、母校の教授となったが体調を崩したため、渡米して療養。療養中に、日本人の精神を世界に紹介するため英文で著した本が、「BUSHIDO THE SOUL OF JAPAN」である。各国語に翻訳され、日本文化が欧米人に知られることになった。国際連盟事務次長を務めるなど、国際平和のために貢献した。

2 人と支え合って
(3) 励まし合い高め合える生涯の友を

P.60~65

2-(3)

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとって友人との関わりは難しいと感じるテーマの一つである。その要因の一つには、真の友情についての理解が十分でないことがある。そこで、本内容項目では真の友情についての考えを深めていくことを大切にしたい。

六十ページでは、生徒の現状に関わって、心から信頼できる友を得るためにどうあるべきかを問い掛けている。六十一ページでは、生徒の友情観を確認し、六十三ページでは、友情について家族や先輩の話を書いて書き込むことができる構成になっている。

真の友情は表面的な仲よしではなく、いつも近くにいることでもない。信頼という目には見えない心のつながりがそこにあるかどうかだということについて考え、真の友情を深めていくような態度を育てていきたい。

2 活用のポイント

中学生ともなると、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。相手のことを心から信頼できる友達関係が望まれるところであるが、その関係の構築は容易なものではない。

指導に当たっては、そのような難しさも認めつつ、尊敬し信頼し合うことのできる友情を育てるために、まず自分

がどうあるべきかを、自分自身のことを振り返って考えられるようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

真の友情は、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係から生まれることを生徒が自分自身の現状に照らし合わせて考えられるようにするために、六十四ページの「メッセージ」などを活用することができる。

事例

- ① 六十・六十一ページを読んで、自分にとって友達とはどのような存在かを考え、話し合う。
- ② 「メッセージ」を読んで、「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粋な美しいものの一つだと思おう。」という言葉に込められた本田宗一郎の思いや考えについて話し合う。
- ③ 生涯の友を得るために、また、友となるために自分なりに大切にしたいことについて話し合う。
- ④ 友達のために何ができるかを考えて、六十一ページの書き込み欄に記入する。



P.60~61

国語科

正岡子規の俳句や夏目漱石の小説を学習する際に、六十二ページの「正岡子規と夏目漱石」を活用し、作者への関心を高めるようにしたい。

あわせて、子規は俳句や短歌を研究し、俳句の世界に大きく貢献したこと、漱石と下宿を同じくして、共に俳句を読むなどしたこと、そして、子規と漱石は文学的、人間的に影響を与え合ったことなどを理解させたい。

家庭との連携

六十三ページの書き込み欄を活用して、家の人や人生の先輩にそれぞれの考える友情について取材し、聞いたことをまとめて記入する。

◆この人のひと言

「私は世界にふたつの宝をもっていた。

私の友と私の魂と。」

二度の世界大戦の時代に生きたロマン・ロランは、一貫して反戦を訴え続けたヒューマニストとして知られ、生き方に悩みを抱えた人々を励ます文学作品を書き続けた。一九一五年、ノーベル文学賞を受賞している。友情に関する次の言葉についても考えてみたい。

「君を理解する友人は、君を創造する。」

◆メッセージ（本田宗一郎）

「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粋な美しいものの一つだと思おう。」

本田宗一郎は、日本を代表する世界有数の自動車メーカーを共に育て上げた藤沢武夫と、かけがえのない友であり続けた。そのために心に留めていたことなどがこの「メッセージ」に記されている。

このことを生徒一人一人に自分のこととして捉えさせ、自分の身近な友人関係を振り返りながら具体的に考えさせることが大切である。

また、「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粋な美しいものの一つだと思おう。」という言葉に込められた本田の思いや考え、また、その言葉に対する自分の考えをまとめ、生徒にとっての友情の定義を表現させてみることも考えられる。



P.64

2人と支え合って
(4) 異性を理解し尊重して

P.66~71

2-(4)

男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

1 この内容項目のページの特徴

男女は社会の対等な構成員であり、両性の尊重と協力によって、社会生活が営まれている。
現代社会では、あらゆる分野にわたって男女が平等に活動できる機会が与えられなければならない。これは両性相互の尊重と協力があって成り立つものである。そのため、本項目は、互いをよりよく理解するために大切なことや、中学生の男女交際、さらに男女共同参画社会の実現に向けての課題などについて考え、異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する態度を養う内容になっている。

2 活用のポイント

イラストや写真等を用いて、生徒自身が考えたり、グループ討議をすることができる。男女は互いに理解し、高め合うことが大切である。このことは、自分自身や集団生活を豊かに楽しくするものである。一般に異性に対する関心が強くなるこの時期、偏った考え方や誤解を見直し、違いを受け止め、尊重する態度を育てたい。
また保健体育科における性に関する指導等との関連を生かした活用についても工夫するようにしたい。

※性同一性障害に係る生徒に対しては、生徒の心情に十分配慮した対応を行うようにする（「児童生徒が抱える問題」に対しての教育相談の徹底について（通知）「平成二十二年四月（文部科学省HPにも掲載）等参照）。

3 活用場面例

道徳の時間

異性に対する理解と互いを尊重した中学生の男女交際の在り方について考えさせるために、六十六から六十八ページや七十ページの「人物探訪」を活用することができる。

事例

- ① 六十六ページのイラストの男女は、何を思い、考えているのか。六十七ページの異性に対する好き嫌いに關する思いを参考に話し合う。
- ② 異性への関心が芽生える中学生の時期の男女の在り方について話し合う。その際、六十八ページの書き込み欄に記入したり、中学生の男女交際の在り方について討議しやすい課題を設定し、グループ討議を行ったりする。
- ③ 七十ページの「人物探訪」を通して、互いを尊重し合う關係について話し合う。

社会科（公民的分野）

日本国憲法と平等権の単元における男女共同参画社会などの学習で本項目のページを活用することができる。また、国際社会の単元でも、国際連合などが中心となっ

て進めている両性の平等、男女共同参画などについて学習した後で、六十九ページの書き込み欄に様々な情報を基にして課題を書き出し、異性の相互理解と尊重についても改めて学ぶことができる。

■技術・家庭科（家庭分野）
家族・家庭と子供の成長の学習で、六十九ページの文章を読んだり写真を見たりして、互いに理解し合い、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることや、家族の役割について考えたり、話し合ったりすることができる。

◆この人のひと言

「愛とは他人の運命を自分の興味とすることである。他人の運命を傷つけることを畏れる心である。」

倉田百三の評論『愛と認識との出発』の一節である。百三は、巻頭に「この書を後れて来たる青年に贈る」とし、青年がまさに考えるべき重要な問題の一つとして、善、真理、友情、信仰などととも、恋愛に關しても本質的な考え方を示そうとした。

『愛と認識との出発』の「版を改むるに際して」の最後の文章、「青春は短い。寶石のごとくにしてそれを惜しめ。俗卑と凡雑と低吝とのいやしくもこれに入り込むことを拒み、その想いを偉いならしめ、その夢を清からしめよ。夢見ることをやめたとき、その青春は終わるのである。」も知られている。

◆人物探訪〈新島八重〉

「...she is a person who does handsome.」
（彼女は美しい行いをする人です）

（道徳の時間の学習展開の例）

歴史の資料等を参考にしながら、この「人物探訪」を活用し、次のような問い掛けを行って話し合うこともできる。

- ① 男女の協力からイメージするのはどのようなことかを考え、発表する。
- ② 七十ページの「人物探訪」を読む。
- ③ 新島八重の手柄や功績などについてどのように感じ、考えるか発表する。
- ④ 新島襄が「亭主が東を向けと命令すれば、三年間でも東を向いているような御婦人はごめんです。」と言った思いについて発表する。
- ⑤ 「美しい行いをする人」と襄が八重のことを語っていることを取り上げ、襄と八重はお互いどのような存在だったか話し合う。
- ⑥ 男女の協力により新たな力が創出でき、よりよい社会生活が営まれることについて考えを深める。



P.70